

DOCTORS

北九州総合病院広報誌



北九州総合病院



北九州総合病院は、「安全かつ適切な医療」「患者本位の医療」を実践し、健全なる地域社会の実現に貢献します。

〒802-8517 福岡県北九州市小倉北区東城野町1-1 社会医療法人北九州病院 北九州総合病院 TEL:093-921-0560 (代) FAX:093-921-1450

©Kitakyushu General Hospital 2021



産婦人科部長
藤本 英典

産婦人科副部長
野中 宏亮

産婦人科副部長
稲垣 博英



産婦人科部長
フジモト ヒデノリ
藤本 英典
日本産婦人科学会専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



産婦人科副部長
ノナカ ヒロアキ
野中 宏亮
日本産婦人科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本内科学会認定内科医



産婦人科副部長
イナガキ ヒロヒデ
稲垣 博英
日本産婦人科学会専門医
日本母体救命システム普及協議会インストラクター

はじめに

当院では、産科婦人科専門医の資格を持ったベテラン医師が診療しています。2021年4月より医師が1人増員となり、3人体制となりました。全員40歳以上でフレッシュさには欠けませんが、安心、安定感があります。患者様の安全・安心を確保するため、日本産婦人科診療ガイドラインに準じた標準治療・管理を行っています。

現在は新型コロナウイルスの院内感染に細心の注意を払いながら通常診療を行っております。

婦人科について

診療内容

良性の婦人科疾患(子宮筋腫、良性卵巣腫瘍、子宮内膜症、異所性妊娠など)のほか、不妊症、性感染症(STD)、更年期障害、月経管理、婦人科検査(子宮頸がん検診、子宮体がん検診、超音波検査による卵巣がん検診)などの診療を行っております。不妊症の検査・治療は、人工授精(AIH)まで行っています。

また、手術は良性疾患(子宮筋腫、子宮腺筋症、良性卵巣腫瘍、子宮内膜症、不妊症、異所性妊娠など)を主に対象としています。体に負担の少ない腹腔鏡手術を積極的に取り入れています。

診療の具体的な内容

1. 良性婦人科疾患の腹腔鏡下手術について

一通りの良性疾患の腹腔鏡手術を実施しています。3Dカメラや4K画像を駆使し、従来より精緻な手術手技が可能となりました。他院や職場検診などで婦人科良性疾患(子宮筋腫や卵巣腫瘍など)を指摘され、手術すべきか迷われている方、手術を希望されている方、腹腔鏡手術に関心がある方、セカンドオピニオンを受けたい方に対して患者様のニーズに合わせた治療方法を提案しています。待機日数も他院に比べて短めです。お電話からでもいいのでご相談ください。

2. 更年期障害

更年期障害は、加齢による卵巣機能低下により引き起こされる身体的・精神的な不調の総称です。ほてり・情緒不安定・肩こり・イライラ・めまい・冷え・不眠など症状は多岐に渡ります。また、出現する症状の数や程度には個人差があり、症状の持続期間も人それぞれですので、ひとりひとりに合わせた治療が必要です。当院ではホルモン補充療法(HRT)のほか、プラセンタ注射、漢方療法、エクオールなど患者様に最適の治療を提示させていただいています。不快な症状を我慢して過ごされる方が多いですが、症状に適した治療を行うことで、症状が和らぎ生活の質を改善することができます。より良い人生を送っていただくためにも、一人で悩み苦しむのではなく、ぜひご来院・ご相談ください。

産科について

当科では、日本産婦人科診療ガイドラインに準じた標準治療・管理を行っています。現在、自然分娩・帝王切開術での分娩の取り扱いに加え、令和3年11月より無痛分娩を再開しています。総合病院ならではの他科との迅速な連携により、安心・安全で、満足感のある分娩を提供できることが当院の強みです。

また、妊娠期・分娩期・産褥期には、助産師による専門的なケアを受けることが可能です。女性同士で相談・確認したいことがある場合や、保健指導を受けたい場合には、助産師までお気軽にお尋ねください。

産婦人科は、全室個室での入院ですので、プライバシーが守られる中、周囲に気兼ねすることなくお過ごしいただけます。

診療の具体的な内容

1. 妊婦健診

妊娠週数や母児の状態に合わせて妊婦健診を行っています。妊婦健診を受ける妊婦さんは、分かりやすく丁寧な助産師の保健指導を受けることができます。母体の高血圧や糖尿病、子宮筋腫、パニック障害など、様々な合併症妊娠の管理も行っています。

また、3D・4D胎児超音波診断装置による胎児診断も行っており、赤ちゃんの成長の様子をご覧いただけます。



2. 出生前診断

羊水染色体検査、クワトロテストなどの出生前診断が可能です。関心のある方はお早めにご相談ください。

3. 妊娠期の入院管理

切迫流産や切迫早産、重症妊娠悪阻、合併症妊娠の悪化時など、妊娠中に治療や安静が必要な妊婦さんは入院管理をしています。

4. 分娩・産褥管理

当院は、夫の立会い分娩も可能ですので、希望がある場合にはお知らせください。

(新型コロナウイルスの市中感染状況により立会い不可となることがございますので、病院ホームページ等でご確認下さい。) アットホームな雰囲気の中で、安心・安全で快適なお産が実現するよう支援いたします。また、母児の安全のために必要と診断された場合には、腹式帝王切開術を実施しています。

分娩後は、経膈分娩の方も、帝王切開分娩の方も、産婦人科病棟の個室に入院し、助産師による産後ケアを受けながら、心身の回復と育児の習得の支援をさせていただきます。ご自身のお体のことや赤ちゃんのことで、疑問に思うことや不安に思うことがありましたら、いつでも医師や助産師にご相談ください。



無痛分娩について

皆さんは、お産は痛くて当たり前と思っていないでしょうか？実はそんなことはありません。それを解決するのが無痛分娩という選択です。また、「痛いのが苦手…」「前回のお産が痛すぎて、出産が怖い…」という方も多いのではないのでしょうか？

妊娠中の過度な不安感やストレスは、お腹の赤ちゃんへの酸素供給の妨げになるということが近年の研究で証明されています。無痛分娩により、その不安感やストレスをとり除けば、お母さんや赤ちゃんの疲労も少なくなり、お産の満足度も高まることとなります。

無痛分娩とは、麻酔を使って分娩時のさまざまな痛みをやわらげる出産方法です。分娩時の痛みが完全に無くなるわけではないので「和痛分娩」とも呼ばれますが2つの言葉に明確な違いはありません。

図1.お産の痛みの伝わり方

子宮が収縮したり、子宮出口や膣が引き伸ばされたりすると、その刺激は神経（黄色く描かれた線）を介して脊髄に伝わります。その後、脊髄を上って脳にいたり、「痛み」として感じられます。

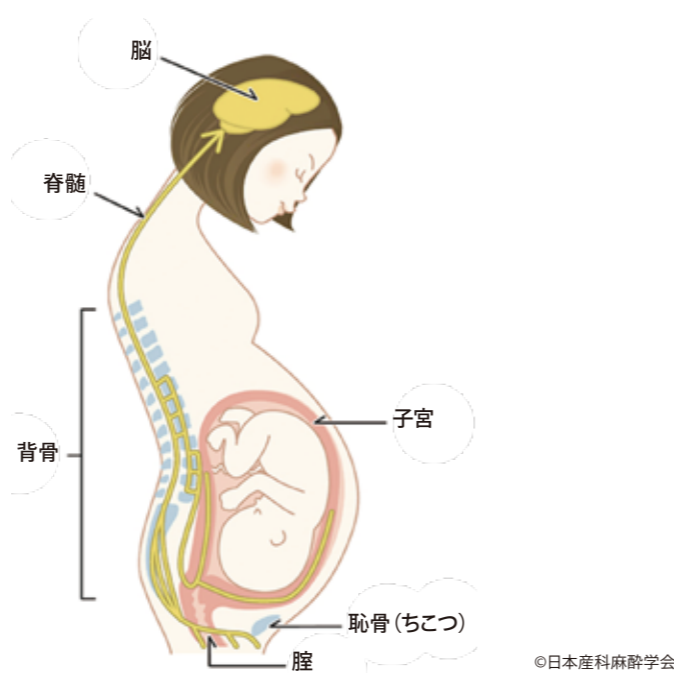
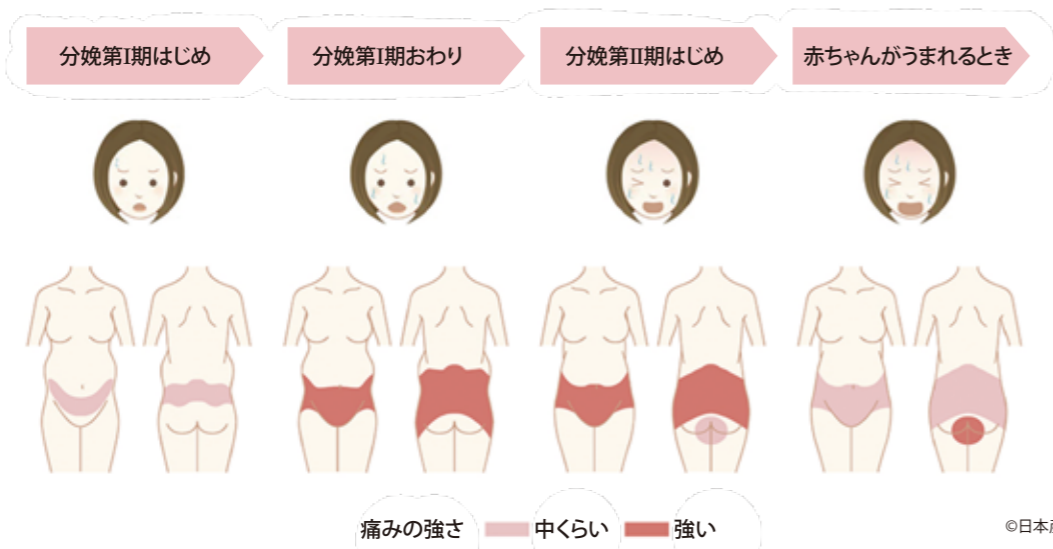


図2.陣痛の場所と強さ

お産の進行にともない、痛みの場所や程度が徐々に変わってきます。



硬膜外麻酔について

無痛分娩には色々な方法がありますが、現在もっとも行われているのは硬膜外麻酔によるものです。当院でもこの方法で行います。出産に伴う子宮の収縮や産道の広がりに伴う痛みは、脊髄を通して脳へ伝えられます。硬膜外麻酔は区域麻酔と呼ばれ、体の一部を麻酔し痛みを和らげる方法です。

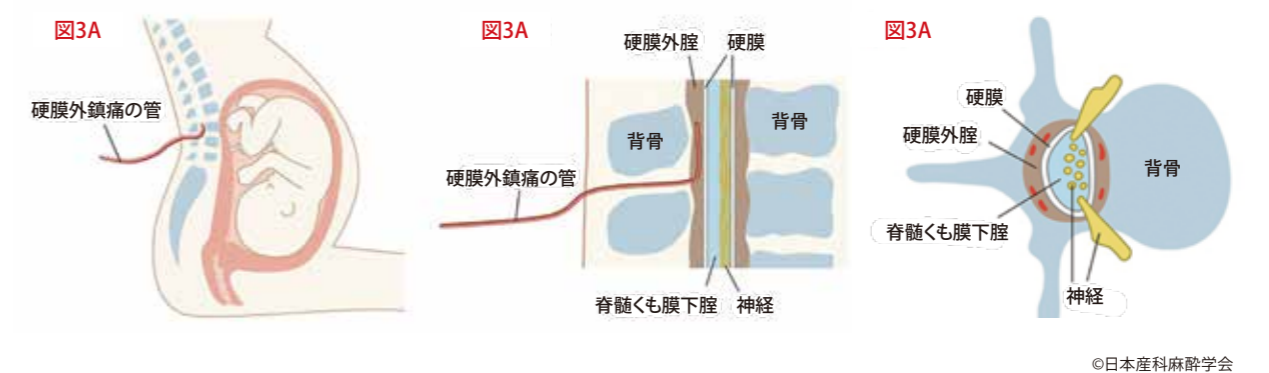
腰部から麻酔を行うことで、子宮や産道から伝わる痛みを脊髄で遮断するため、出産時の痛みを効果的にとることが可能となります。麻酔中はお母さんの意識は保たれ、赤ちゃんへの影響はほとんどありません。完全に痛みをとってしまうと陣痛がとまり、お産が停止します。そのため「痛みがやわらく」程度にしておく方がスムーズなお産になります。よって当院では「痛みがやわらく」を目標に考えています。

また、局所麻酔ですから産婦さんの意識ははっきりしていて、赤ちゃんのうぶ声を聞くこともできますし、誕生直後に抱くこともできます。

当院では平成30年6月より無痛分娩を休止しておりましたが、本年4月より産婦人科医師が一人増員となり3人体制となったことを契機に、令和3年11月より無痛分娩の取り扱いを再開することいたしました。以前は硬膜外麻酔導入を産婦人科医師が行っていましたが、安全面を第一に考え麻酔科専門医が硬膜外麻酔の導入を行います。

図3.硬膜外鎮痛

図3Aに、お母さんの背中に入った硬膜外鎮痛の管を示します。管の付近を拡大したものが図3Bです。図3Cは背骨の断面像です。



計画分娩について

当院での無痛分娩は原則、計画分娩で行ないます。計画分娩とは、分娩の日取りをあらかじめ計画的に決め、陣痛促進剤を使用し人工的に陣痛を起こし、分娩を誘導する方法です。よって自然陣痛での無痛対応は原則行なっておりませんので、予定入院前に陣痛が発来した場合や破水入院となった場合は、無痛分娩対応ができませんのでご了承ください。

画像：一般社団法人 日本産科麻酔学会ホームページより転載



北九州総合病院
産婦人科